

文字文化を育む本企画は継続すべきと思いますし、ますますの発展を望みます。

(いなば たかし)

「言語力」大賞コンテスト審査委員を務めて

第7回言語力大賞審査委員 理工学研究科教授 渡辺 孝夫



普段は小説の類をほとんど読まない私ですが、今回「言語力」大賞コンテストの審査委員を務めました。ほんとうに務まるか不安でしたが、今は無事終えてほっとしています。

いざ作品を読み始めますと、物語の以外な展開に感心したり、登場人物の気持ちはどんなだろうと考えたりして、とても楽しめました。弘大生の「言語力」はレベルが高いと思います。今年は、惜しくも入選にはならなかった作品にも、個人的にはなかなか素晴らしいと思えるものが多数ありました。みなさん、来年も是非挑戦して欲しいと思います。

一方で、やはり評論部門の応募が少ないのが課題です。学生さんの立場としては、「評論」と言わ

れると何か堅苦しい感じがしてしまうのかもしれませんが。あるいは、何を書いたら良いのかきっかけがつかめないのかもしれませんが。思い切って文学作品部門を小説のみにして、その他のジャンル（評論、随想、詩、ノンフィクションなど）をまとめて自由作品部門にするのはいかがでしょうか。あるいは応募のポスターで、「評論」にはこんなことを書いて下さいと簡単な説明を加えると良いかもしれません。

それにしましても、この「言語力」大賞コンテストはとても良い企画だと思います。作品を読みながら、一所懸命に書いている学生さん達の姿が思い浮かびました。今後の益々の発展を祈念しています。

(わたなべ たかお)

特集 新たに指定された貴重資料

「秋田阿仁鉱山関係絵図について」

附属図書館長 長谷川 成一



このたび、附属図書館所蔵の「秋田阿仁鉱山関係絵図」が、新たに貴重資料に指定されました。同絵図は、5点（絵図は、^{しき}鋪と数えます）の各図から成り立っています。

本学では、昭和40年(1965)、旧文理学部改組の際に、交付された機関研究の経費によって多くの書籍・資料が購入されましたが、当該の絵図類は、その一環として購入されたものです。平成17年(2005)以降、大学院地域社会研究科の長谷川ゼミで当該絵図類の調査が実施され、年代が不明な資料に関しても研究が進み、ここに貴重資料として指定するに至りました。

各絵図の内容については、以下の通りです。

①阿仁鉱山二ノ又山鋪図 1鋪 紙本著色 文久3年(1863)

阿仁二ノ又鉱山の山支配人伊藤真楽が秋田藩山役人の杉原源之助へ進上した同山絵図であり、坑道図でもあり、^{おおたて}大楯・^ひ砒などと称される銅鉛^{ひどおし}の砒通（鉱脈の分布状況）が朱線で描かれて、嘉永6年如月（1853年2月）に鉱山改めを行った際に作成され、文久3年に藩へ進上されたと推定されます。

②阿仁銀山町絵図 1鋪 藩政時代 紙本著色 阿仁銀山町の絵図。図中に「銀山上新町」「銀山下新町」「畠町」「寺」「愛宕社」「山神社」「行人」「神明社」等の記入が見え、藩政時代阿仁鉱



⑤の阿仁鉱山一ノ又山全図の部分

山の町方を様子を知るのに好適の資料です。

③阿仁鉱山一ノ又山境図 1 鋪 近代 紙本著色

同図には、鉱山建物、人民借地などの用語が見えるので、近代に入ってからのもと考えられます。鉱山の範囲を黒線で囲っていて、その中に採掘場と想定される面積と沢名が書かれていますので、採掘権の確認のために作成したのでしょう。近代初頭の阿仁鉱山の状況を知る上で貴重です。

④阿仁鉱山一ノ又山舗図 1 鋪 藩政時代 紙本著色

一ノ又山鉱山の舗図。図中に御台所おだいどころ（藩政時代の鉱山事務所）と柵、舗口（坑口）と各坑夫の家々が描かれています。四角の朱線で記された箇所には、本来は地名などが記入されるはずですが、空欄になっているので、当絵図は未完成であった可能性があります。

⑤阿仁鉱山一ノ又山全図 1 鋪 天保10年（1839）代と推定 紙本著色（上掲の写真参照）

当絵図は、阿仁鉱山のうち一ノ又銅山領内を描いたもので、図中に方位と地理的な目印が示され、御台所（鉱山事務所）や蔵、神社・堂、役人およ

び舗主・本番主や坑夫たちの住居がみえます。鳥居の有無で神社・堂が区別され、住居の形態も少しずつ異なるなど建物の形態が精細に描き分けられており、さらに舗主や労働者の住居については、「舗主理助」、「床大工万助」のように職種と名前の両方を記し、鉱山の内に各職種の者が住んでいたことを明示しています。

当絵図は、藩政後期に秋田藩が山領内の建物や住居の分布状況を詳しく把握するために公的な目的で作成した絵図であり、詳細な鉱山絵図として貴重な価値を持ちます。

附属図書館では、当絵図の裏打ちをして、絵図の劣化を防ぐ措置をしました。

以上のことから、「秋田阿仁鉱山関係絵図」は、近世から近代にかけての秋田阿仁鉱山の歴史を解明する上で貴重な資料です。今後、阿仁鉱山のみならず前近代の鉱山史の研究に不可欠の史資料として広く活用が期待されます。

【参考】土谷紘子「『阿仁鉱山一ノ又山全図』の解析・考察を中心とした『秋田阿仁銀山之絵図』（弘前大学附属図書館蔵）の研究」（『弘前大学大学院地域社会研究科年報』第2号 平成18年）

（はせがわ せいいち）